

題 名 沖縄都市交通における戦略的改革フローの提案 ーフランスの脱車社会政策に学んでー

沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課

しまぶくろ ひろゆき
○主任 島 袋 寛之

1. 目的

本県の都市交通問題を改善に寄与することを期待して、発表するものである。

2. 内容

沖縄本島中南部都市圏における都市交通は、社会的、時代的にも、市民ニーズとしても改革を望まれているが、抜本的改革の道筋はこれまで見えてこなかった。その理由は、複雑な交通問題は多角的な視点から検討することが可能で、よって幾多の提案された理想像も異なる段階のものであり、政策論争になりえず、社会変容を促す一歩にならなかったからである。

故に本研究では交通改革の必要性・目的を定義し、その理想とする社会実現のための戦略的フローについて、先進地であるフランス地方都市の脱車社会政策の事例等から考察する。

3. 結論

自動車交通が社会に与える負の影響(外部費用)の急激な増大が、現代都市交通に改革が必要な原因であり、都市交通を含有する都市生活を豊かにすることが最たる目的である。

よって、改革は自動車交通抑制だけにとどまらず、都市計画を経ない本県では特に、都市をも交通によって改造、再生する必要がある。そのためには、市民、行政、政治でのコンセンサスが必要であり、一貫した共通認識がフローの上流部で必要となる。つまり、基盤整備(理念・計画・財源・組織)が重要である。

4. 今後の問題点

本県のような極度の自動車依存社会で脱車政策を打ち出せた都市は、未だにない。今後は、いかに先進地の事例を本県に照らし合わせて、合理化、適合化したスキームを創造できるかが課題である。